

茶のわん ゆんたく

お茶を飲みながら、
ぎのわんの歴史を
のぞいてみませんか？



喜友名の三叉路のその先には：

上の写真は喜友名の旧集落の西端にある三叉路です。この三叉路を左に行くと、神山の集落へ行くことができました。その途中には、測量の基準点(立石)が置かれた「タテシカジマヤー」という交差点があり、かつてそこには平松がありました。この平松は「タテシヒラマーチャー」と呼ばれ、毛遊びをした場所だったそうです(現在は普天間飛行場内)。

一方、三叉路を右に行くと宜野湾の集落に行くことができました。戦前まで宜野湾には村役場があったため、この道は



▲喜友名の三叉路
左がタテシミチ、右がヤクバミチ

「ヤクバミチ」と呼ばれていました。当時の宜野湾集落は宜野湾村の中心で、郵便局や派出所のほかにも小学校もあったため、ヤクバミチは喜友名集落の子どもの通学路にもなっていました。

このヤクバミチは、流通の面でも重要な役割を担っていました。ここにはトロッコ軌道が敷設されており、宜野湾村の主幹産業であるサトウキビの運搬にも利用されていたのです。

下の写真は、三叉路から上述した2本のスジミチを背に、伊佐方面に延びるスジミチを写したものです。手前には、市指定民俗有形文化財の仲元前のシーサーが置かれています。ヤクバミチから続くその道は、かつて「トゥルミチ」と呼ばれ、サトウキビをたくさん積んだトロッコが馬に引かれて走っていました。この道は、伊佐でかつての県道に合流し、大山駅までサトウキビを運搬するために利用されていたのです。この県道の一部は西普天間住宅地区の発掘調査で検出され、「普天間旧道跡」という遺跡名で周知されています。

【問合せ】
市立博物館 ☎ 870-9317



▲喜友名のトゥルミチ
この道をトロッコが走っていました

はくぶつかんの 部屋 52

宜野湾市の歴史や文化などを
紹介します。



市立博物館
イメージキャラクター
天女ちゃん

西普天間住宅地区での 資料収集

キャンプ瑞慶覧の西普天間住宅地区は2015(平成27)年3月に返還されました。これから、新たな街へと生まれ変わるとうとする西普天間ですが、跡地利用の前に、市立博物館では基地があった当時の様子を記録・保存するために、資料収集活動を行いました。今回は当該地区で収集した資料を紹介します。

この地域は戦前、普天間、安仁屋、新城、喜友名の4つの字にまたがり、宅地、畑などがありました。そのほとんどが消失し、基地が建設されました。

西普天間のハウジングエリアと呼ばれる地区で収集を行い、道路標識や標柱等、当時の街の様子や、人びとの生活についてうかがえる資料を収集しました。特に、コンクリート製の道路標柱には



▲コンクリート製道路標柱
2016(平成28)年撮影

「VIRGINIA ST」「ALABAMA ST」等と記されており、アメリカの州の名前を道路に名付けていたことがわかりました。これらの収集した資料は、当館の開館20周年を記念する企画展Ⅱ「変わりゆく街並み」西普天間の移り変わり」にて展示します。今後、発展を遂げる西普天間を中心とした地域はどんな場所だったのか？発掘調査や写真などの史料を基にして、その移り変わりを紹介します。皆さまのご来館をお待ちしております。

◆博物館開館20周年記念企画展Ⅱ

「変わりゆく街並み

～西普天間の移り変わり～

期間 10月30日(水)～12月22日(日)

休館日 毎週火曜日、祝祭日(11月23日)

※文化の日は開館(11月4日は休館日)

場所 市立博物館 企画展示室

入場料 無料

【問合せ】

市立博物館 ☎ 870-9317



▲収集した資料 2019(令和元)年撮影
水道柱、消火栓、ゴミ箱、消火器、英数字の黒電話、
ネズミ捕りの罠